

鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会(電話 099-222-7770)

平成21年度県柔道会基本方針

会長 北 哲郎



- 1 嘉納治五郎師範の理想とする「柔道を通じた人づくり」・「人間教育としての柔道」
 - 2 「武の国薩摩」の復活を目指した競技力向上
 - 3 新公益法人制度移行への準備。23年度から、新公益法人制度でスタートする。
- 具体的な方針(内容)

① 全柔連登録の推進

登録本部長	和田 茂市
登録担当(一般)	田中 総一
登録担当(高等学校)	西園 和昭
登録担当(中学校)	古賀 雅弘
登録担当(少年)	林 岩宏

【登録人口の増大】を図る。

② 見舞金制度について

全国的に低学年の事故が多発している小学生は、登録と同時に強制加入。未就学児は、任意加入。

【事故ゼロ】を目指した「事故防止対策」

③ ルネッサンス活動

ルネッサンス本部長	田邊 侑
ルネッサンス担当(高等学校)	横峯 亨
ルネッサンス担当(中学校)	豎山 孝一
ルネッサンス担当(少年)	林 岩宏

各種大会を活用し、スピーチの積極的な実施。プログラムに「薩摩柔道ルネッ

サンス」宣言文の取り入れと標語募集賞揚

④ 事業関係

- ・大会要項等の見直しをして、本会主催行事については、参加しやすいようにする。
- ・大会中に柔道の形を実施する。

部員不足により、団体戦に出場できないチーム等に対しては、参加意識を持たせるために、「柔道の形」の部で参加させる。

- ・少年部指導者育成と底辺の柔道人口拡大策。

⑤ 審議部関係

昇段試験の取組み

- ・本部の「冬季昇段試験」を「春季昇段試験」へ変更し、参加し易いようにした。

- ・「形講習会」

高段者(六段以上)の昇段試験受験者の要望により、必要に応じて実施する。

⑥ 審判委員

各ライセンス修得の推進

- ・Aライセンス 毎年各県2名
- ・Bライセンス 毎年九州一斉に6月実施
- ・Cライセンス 毎年5月指導者講習会で実施

※ 役員(指導者)の任務

競技柔道の一つの目標は、試合において勝つことである。しかし、最終の目標は、「人間教育としての柔道」、礼節を重んじた「立派な柔道人の育成」である。

指導者は、常に「人間形成」という大きな目標があることを忘れてはならない。

教育としての柔道を実践していくことがこれからの柔道発展にとって最も重要である。

目標達成のためには、指導者と修行者間の「信頼関係」が最も大切で、「教える側」と「教えられる側」のお互いの気持が通じ合い、「尊敬される指導者」となることが

大切です。

【指導者自身が、人間として自分を成長させること。】です。

北 哲郎会長再任・新体制

会長	北 哲郎 (兼全柔連評議員)
副会長	木原 紀幸 (兼総務部長)
〃	豊永 強 (兼審議部長)
〃	亀丸 政弘 (兼事業部長)
理事長	松永 郁男 (兼九州柔道協会評議員)
常務理事	堀之内俊隆 (審判委員長)
〃	木本 洋一 (事務局長)
〃	徳永 正明 (事業部副部長)
〃	北薮 季康 (強化部長)
〃	田中 総一 (強化部副部長)
理事	和田 茂市 (登録部長)
〃	田邊 侑 (ルネッサンス本部長)
〃	山崎 逸郎 (審議部副部長)
〃	稲田 博実 (事業担当)
〃	田島 史朗 (審議担当)
〃	田原 幸一 (強化担当)
〃	福元 雅一 (強化担当)
〃	大脇純一郎 (強化担当)
監事	牧 光紘
〃	柏木 茂穂
書記	鮫島 明美
顧問	林 三郎
〃	山下 開導
〃	嶋田 武夫
〃	寺前 弘道
〃	林 岩男
〃	牧 光紘 (顧問医)
〃	入來 敦久 (顧問医)
評議員	畑添 勉 (鹿児島市会長)
〃	(鹿児島支部長)
〃	屋敷平勝正 (鹿児島支部)
〃	井川 秋義 (鹿児島支部)
〃	濱田 征夫 (鹿児島支部)
〃	向井 雄志 (鹿児島支部)
〃	向井 一輝 (鹿児島支部)
〃	中薮 雅博 (鹿児島支部)
〃	吉村 智之 (鹿児島支部)
〃	横峯 亨 (鹿児島支部)

評議員	林 岩宏 (鹿児島支部)
〃	堅山 孝一 (鹿児島支部)
〃	長倉 幸蔵 (鹿児島支部)
〃	山野 修 (鹿児島支部)
評議員	田川 盛二 (奄美支部長・事務局)
〃	安山 幸蔵 (奄美支部)
〃	福山 研朗 (奄美支部)
評議員	蓮子 昭夫 (熊毛支部長)
〃	鎌田 哲二 (熊毛支部)
〃	日高 憲史 (熊毛支部事務局)
評議員	島 猛 (出水支部長)
〃	鶴田 均 (出水支部)
〃	森 浩一郎 (出水支部・事務局)
評議員	慶越 武則 (阿久根支部長)
〃	松永 頃利 (阿久根支部)
〃	古賀 正男 (阿久根支部事務局)
評議員	小辻 富義 (川内支部長)
〃	吉内 一夫 (川内支部)
〃	平 善行 (川内支部)
〃	吉内 孝徳 (川内支部事務局)
評議員	畦元 徹郎 (日置支部長)
〃	田村 勉 (日置支部)
〃	南 昌治 (日置支部・事務局)
評議員	野沢 好則 (南薩支部長事務局)
〃	平木場政仁 (南薩支部)
評議員	田村 信弘 (指宿支部長)
〃	中村 義照 (指宿支部)
〃	上薮浩司 (指宿支部事務局)
評議員	森 好郎 (大口支部長)
〃	河野 辰男 (大口支部)
〃	増満 亮太 (大口支部事務局)
評議員	小妻 幸造 (始良支部長)
〃	木上 洋臣 (始良支部)
〃	内村 秀樹 (始良支部)
〃	未満 盛家 (始良支部事務局)
評議員	山川 賢朗 (肝属支部長)
〃	小手川清廣 (肝属支部)
〃	持留 信雄 (肝属支部)
〃	宮ヶ原秀一 (肝属支部事務局)
評議員	花堂 信隆 (曾於支部長)
〃	西郷 昌隆 (曾於支部)
〃	鮫島 芳美 (曾於支部・事務局)

柔道功労者等表彰者

【柔道功労者等表彰者】

1 感謝状 2名

- ① 田中 総一氏 (鹿児島支部)
長年に亘り本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。
- ② 山田 龍一氏 (出水支部)
長年に亘り本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。

2 地域振興指導者 3名

- ① 南 昌治氏 (日置支部)
日置支部の事務局長として支部活動等に多大の貢献をした。
- ② 竹下 伸一氏 (曾於支部)
末吉柔道少年団等の指導を永年に亘って行い、曾於支部の柔道の発展に寄与した。
- ③ 皆元 秀美氏 (肝属支部)
永年に亘り柔道の指導に係り、青少年の健全育成に尽力した。

七段・八段昇段者

【平成21年度 七段, 八段昇段者】

○ 八段昇段者 (1名)

濱田 初幸 (肝属支部)

○ 七段昇段者 (6名)

木本 洋一 (鹿児島支部)
西川 達也 (鹿児島支部)
稲田 博実 (鹿児島支部)
田中 総一 (鹿児島支部)
糸嶺 篤宏 (鹿児島支部)
江籠平 保則 (南薩支部)

「柔道指導者講習会」報告

県総合体育センターとの共催で平成21年度の柔道指導者講習会が、5月14日と15日の2日間にわたって県総合体育センターの武道館で受講者135人が参加して開催された。

1日目は、午前中にスポーツドクターで医学博士の具志堅隆氏の「スポーツドクターから見た競技力向上について」の講話があった。

午後からは、講義Ⅰ「国際柔道連盟試合審判規定」について、北菌季康氏 (鹿児島県警察本部警務課) と講義Ⅱ「講道館柔道試合審

判規定」について、田中総一氏 (鹿児島県警察本部警務課) が、前後半に分けて講義をされ、今年から改訂された柔道場の場内と場外の判断についての質疑交わされ、受講者が熱心に受講した。

2日目は、午前中の前半に、実技Ⅰ「投の形」徳永正明氏 (鹿児島拘置支所)、実技Ⅱ「柔の形」堅山浩治氏 (舞鶴中学校) があり、受講者を2つの班に分けて指導した。後半も、演習「得意技」福元雅一氏 (鹿児島中央警察署)、実技Ⅲ「初心者向けの指導法」吉村智之氏 (鹿児島南高等学校)、田原幸一氏 (甲陵高等学校) があり、受講者を2つの班に分けて指導した。

午後からも前半は、実技Ⅳ「固の形」西園和昭氏 (吹上高等学校) と実技Ⅴ「初心者向けの指導法」があり、次ぎに、「柔道フオーラム」児玉拓也 (帖佐中学校) と「スポーツ少年団の全国役員会議」柏木茂穂 (正道館館長) に参加した二人の伝達があった。

最後の実技Ⅵ「審判法・高段者試合」は、北菌季康氏・田中総一氏が指導に当たり、講習会の全ての日程を終了した。

この指導者講習会は、毎年5月の中旬に指導者の資質向上と本県柔道競技の競技力向上を図るために開催されており、各支部の柔道会役員・学校の教師・警察や刑務所それに一般の柔道関係者などが、県内の各地から集まり、参加者も毎年100人を越えている。鹿児島県柔道会が、力を入れている行事の一つとなっている。

(道場だより4)

正道館柔道場の回想と現状

正道館柔道場館長 柏木茂穂

武岡五丁目に柔道場を建設して、当時の県柔道会会長の林岩三先生、副会長の楠力先生中亮先生それに林三郎先生に御出席いただいて柔道場開きをしました。

あれから30年の月日が過ぎ去り、昔日の想いは夢のようです。

大きな希望と理想を持って始めた道場でしたが、現実には厳しく6~7名の子供しか入門

せず苦しいスタートでした。これまでの正道館は、山あり谷ありの歴史でしたが、谷の方が多かったようです。

幾度か挫折し、道場を閉鎖しようと思ったこともあります。そのうち柔道のセンスに恵まれた子供たちが入門してきて、県内の大会で優勝するようになりました。そして、ナポリの親善試合の一員として、正道館から荒武・桑鶴・鹿倉が選抜されました。このころから、正道館柔道場にも活気が出てきて、入門する子供たちも増えてきました。

現在、羽生浩行ヘッドコーチ他5名のコーチが指導に当たっています。

最近、子供の練習に付き添ってきた親が一念発起して柔道を始めたケースもあります。また、子供の親で柔道経験者が柔道衣を着て稽古を始めた人もいます。

練習は、原則として、土曜日・日曜日・月曜日の3回で、練習時間は、2時間。

団員は、現在28名。小学3年生以下が過半数を占めています。練習に入る前には、自主的に全員で掃除をしています。

正座、黙想の前に嘉納師範の柔道の定義「柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃、防禦の練習によって、身体、精神を鍛錬、修養し、斯道の真髓を体得する事である。そうして是に由って、己を完成し、世を補益するのが柔道の修行の究竟の目的である。」を朗読させる。

最初は、柔道の定義の意味がわからなかった子供たちも徐々に理解し、暗記している子供もいます。最近これに加えて、「薩摩ルネッサンス宣言」を朗読し、全員で復唱しています。

対外試合は、子供たちが、お互いの稽古だけでは飽きやすく、また、変化と刺激を求めるので、自分たちの実力を知るためにも、案内のあった対外試合には、出来るだけ参加しています。柔道大会の案内をいただいている各支部の先生方には、本当に感謝しています。

底辺拡大のために鹿児島市のスポーツ少年団ポスターの他に独自のポスターを作って、スーパーや銀行・公民館等に掲示しています。

最近の主な成績は、

団体戦 H20年第11回国分縄文旗大会
3, 4年生の部 優勝

個人戦 H20年県下学年別少年大会
4年生の部男子 大脇充倫 優勝
4年生の部女子 瀧川琳花 優勝

個人戦 H20年県少年錬成大会
2年生の部男子 福崎 将 優勝
4年生の部女子 瀧川琳花 優勝

私自身も柔道修行の道半ばですが、精力善用・自他共栄の精神を養いながら、柔道の競技力の向上、一本を目指すダイナミックな柔道を目指して、頑張っていくつもりです。

県柔道会並びに柔道関係の先生方には今後とも御指導のほどよろしくお願ひします。



柔道大会の成績 (1月～5月)

・県下高等学校柔道選手権大会

1月24日(土)、25日(日)
鹿児島アリーナ武道場

団体

男子1位 鹿児島商業高等学校
" 2位 甲陵高等学校
" 3位 鹿児島情報高等学校
" 3位 鹿児島工業高等学校
女子1位 鹿児島南高等学校
" 2位 鳳凰高等学校
" 3位 中種子高等学校
" 3位 鹿屋高等学校

個人戦

男子(60kg級)
" 1位 福山 亮(鹿児島商業高等学校)
" 2位 田中 光(鹿児島商業高等学校)
男子(73kg級)

- # 1位 池田宏次郎 (甲陵高等学校)
- # 2位 東井上知貴 (鹿児島情報高等学校)
- 男子 (90kg級)
- # 1位 山田 泰裕 (甲陵高等学校)
- # 2位 末永 良太 (甲陵高等学校)
- 男子 (100kg級)
- # 1位 大王 光貴 (鹿児島商業高等学校)
- # 2位 山平 隆太 (甲陵高等学校)
- 男子 (100kg 超級)
- # 1位 土屋 潤 (鹿児島商業高等学校)
- # 2位 溝口 恵祐 (鹿児島工業高等学校)
- 女子 (52kg級)
- # 1位 鮫島佑梨子 (鹿児島南高等学校)
- # 2位 安 由里子 (中種子高等学校)
- 女子 (70kg級)
- # 1位 小原 希実 (鳳凰高等学校)
- # 2位 長野 希美 (鳳凰高等学校)
- 女子 (70kg 超級)
- # 1位 岡村 桃子 (鳳凰高等学校)
- # 2位 豊永 祥子 (鹿児島南高等学校)

・鹿児島県柔道選手権大会

1月31日 (土) 鹿児島アリーナ武道場

男子1位 青木 和明 (鹿屋体育大学)

- 2位 帖佐 大輔 (鹿児島県警)
- 3位 堂前 賢吾 (鹿児島県警)
- 3位 中山 博登 (鹿屋体育大学)
- 5位 田代 竜二 (鹿児島県警)

女子1位 濱田尚里 (鹿児島南高等学校)

- 2位 東馬場とも子 (鹿児島南高等学校)
- 3位 松本 光 (鹿屋体育大学)

・県下中学校柔道新人大会

2月15日 (日) 鹿児島アリーナ武道場

団体戦

- 1位 舞鶴中学校
- 2位 伊敷中学校
- 3位 中種子中学校
- 3位 末吉中学校

男子個人戦

- 1位 竹下 恭平 (末吉中学校)
- 2位 下村 柔悟 (田崎中学校)

女子個人戦

- 女子 (44kg級)
- 1位 田中 美佳 (帖佐中学校)
- 2位 永田あいり (伊敷中学校)
- 女子 (48kg級)
- 1位 淵合加奈子 (末吉中学校)
- 2位 羽生明紀子 (緑丘中学校)
- 女子 (52kg級)
- 1位 古川 莉子 (串良中学校)
- 2位 永田ひかり (伊敷中学校)
- 女子 (57kg級)
- 1位 神村 もも (枕崎別府中学校)
- 2位 時任 夏希 (舞鶴中学校)
- 女子 (63kg級)
- 1位 榎谷 有里 (帖佐中学校)
- 2位 湯之上歩惟 (山川中学校)
- 女子 (70kg級)
- 1位 青柳 美希 (舞鶴中学校)
- 2位 木佐貫千夏 (鹿屋東中学校)
- 女子 (70kg 超級)
- 1位 福崎 舞 (鹿屋東中学校)
- 2位 中村 美貴 (甲南中校)

・県下少年新人柔道大会

2月22日 (日) 鹿児島アリーナ武道場

団体戦

- 1位 西之表黒潮柔友会
- 2位 正道館柔道場
- 3位 青雲柔道クラブ
- 4位 光武館

・県高等学校柔道競技大会

5月20日 (水) ・21日 (木)

鹿児島アリーナ・メインアリーナ

【男子団体戦】

- 1位 甲陵高等学校 (6度目V)
- 2位 鹿児島商業高等学校
- 3位 鹿児島情報高等学校
- 4位 鹿児島工業高等学校

【男子個人戦】

- 男子 (60kg級)
- 1位 藤山 成斗 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 前田 武 (加治木高等学校)
- 男子 (66kg級)

- 1位 豎山 将 (鹿児島情報高等学校)
 2位 湯山 翔太 (鹿児島南高等学校)
 男子 (73kg級)
 1位 池田宏次郎 (甲陵高等学校)
 2位 東井上智貴 (鹿児島情報高等学校)
 男子 (81kg級)
 1位 山田 泰裕 (甲陵高等学校)
 2位 地藏 拓郎 (鹿児島工業高等学校)
 男子 (90kg級)
 1位 富山 大介 (鹿児島工業高等学校)
 2位 半下石彪吾 (鹿児島工業高等学校)
 男子 (100kg級)
 1位 大王 光貴 (鹿児島商業高等学校)
 2位 山平 隆太 (甲陵高等学校)
 男子 (100kg 超級)
 1位 土屋 潤 (鹿児島商業高等学校)
 2位 溝口 恵祐 (鹿児島工業高等学校)

【女子団体戦】

- 1位 鹿児島南高等学校 (11連覇)
 2位 鳳凰高等学校
 3位 中種子高等学校
 4位 出水中央高等学校

女子個人戦】

- 女子 (48kg級)
 1位 井上 愛海 (鹿児島南高等学校)
 2位 児玉 千春 (鹿児島南高等学校)
 女子 (52kg級)
 1位 鮫島佑梨子 (鹿児島南高等学校)
 2位 安達 莉穂 (鹿屋高等学校)
 女子 (57kg級)
 1位 富濱 綾香 (鹿児島南高等学校)
 2位 新村 夏美 (鹿児島南高等学校)
 女子 (63kg級)
 1位 古賀ちなつ (鹿児島南高等学校)
 2位 上松 瑞穂 (出水中央高等学校)
 女子 (70kg級)
 1位 小原 希実 (鳳凰高等学校)
 2位 稲森 美咲 (鹿児島南高等学校)
 女子 (78kg級)
 1位 蔵菌めぐみ (鹿児島南高等学校)
 2位 豊永 祥子 (鹿児島南高等学校)
 女子 (78kg 超級)
 1位 稲森 奈見 (鹿児島南高等学校)
 2位 吉野 光 (鹿児島南高等学校)

本部・支部昇段試験の日程

- 奄美 8月23日(日)奄美柔道連盟道場
 熊毛 12月5日(土)種子島中央武道館
 出水 8月2日(日)出水市武道館
 阿久根 11月8日(日)阿久根市武道館
 川内 8月23日(日)れいめい高校武道館
 川内 1月17日(日)れいめい高校武道館
 日置 8月9日(日)伊集院武道館
 南薩 7月26日(日)枕崎市武道館
 指宿 8月2日(日)指宿高校武道館
 大口 9月6日(日)伊佐総合体育館
 始良 6月28日(日)国分中央高校武道館
 始良 11月29日(日)国分中央高校武道館
 肝属 8月2日(日)鹿屋市武道館
 曾於 9月6日(日)末吉中学校武道館
 本部 7月26日(日)県総合体育センター
 本部 3月28日(日)県総合体育センター

主な行事予定 (6月～9月)

- 6月 6日 県ジュニア体重別選手権大会
 6月 7日 県下中学校大会
 6月20日 県下少年学年別柔道大会
 6月28日 国体選手選考会 (少男, 少女)
 7月11日 国体選手選考会 (成男, 成女)
 7月19日 少年部柔道指導者講習会
 7月21日 県下中学総体柔道競技～22日
 7月27日 中学生暑中稽古～29日
 8月22日 形審査会 (六段)
 8月30日 県少年学年別練成大会
 9月 5日 審議会 (五段以下)
 9月20日 第63回県民体育大会
 (伊佐農林高校体育館)

【編集後記】

「県柔道会だより」の創刊から4年が経過し、5年目に入りました。「柔道場だより」も掲載されるようになり、内容も充実してきたように思います。今回は、予定していました「奄美支部だより」を奄美支部の都合で掲載することが出来ませんでした。次号に掲載する予定です。「読みやすく、読みたい、そして、保存して取っておきたい鹿児島県柔道会だより」にしたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。(文責 畑添)